



廃村の今

六月初旬、ひよんなことから、昭和五二年に集団移転して廃村になった長野県伊那市高遠町芝平(しびら)に足を運んできた▼伊那谷を北から南へ天竜川が流れるが、伊那市で合流するのが三峰(みぶ)川だ。その支流の山室(やまむろ)川が高遠町の東側を走る。山室川の上流域が旧三義(みよし)村で、その入り口が山室地区、その先が荊口(ばらぐち)地区、最も奥にあるのが芝平地区である。この芝平は古くは諏訪上社の御狩り場であったといわれ、現在も残っている諏訪神社は一二〇四年の建立で、集落の歴史は古い。田畑はわずかだが、麻と良質の石灰で知られていた▼一八〇九年の検地では芝平に五六戸あったとされるが、昭和三四年には一〇二戸、人口は五〇三人。それが昭和五二年には四〇戸、一三五人にまで減少。急激な離村者の増加で、昭和五二年に同じ高遠町にある上山田地区に集団移転し廃村となった▼移転して四〇年余。既に住居も田畑も神社もぼうぼうに荒れ果てているものと思いきや、意外や意外。故郷への愛着が捨てがたいのであろう。移転した人たちの中には足しげく通う人もいて、草は刈られ、住んではいないが住宅もある程度は管理され、芍薬等が咲く庭もあった。そうした中に何軒か、都会から移住してきた家が混じり、当日は閉まっていたが、ピザ屋もある▼ひと気はかろうじて残されてはいたものの、屋根には何匹もの猿が見え隠れする。人間と動物・自然とのせめぎ合いが限界状態を超えてしまったことを象徴するかのようであった。

(土着菌)